
球磨川 乙史

カナリヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

球磨川 乙史

【Nコード】

N1868U

【作者名】

カナリヤ

【あらすじ】

めだかボックスに思い付きのオリキャラを投入。
ただし、プロローグだけみたいな感じです。
もし、オリキャラかオリ過負荷を使いたい人が居るならメッセージをくれれば使用許可を出しますので、よろしくお願いします

(前書き)

また書いた思い付き作品
多分続きません。

やあ、はじめましてになるよね？僕は球磨川 楔の双子の兄の乙史だよ。

唐突？こつちに語りかけるな？意味不明？そんな事を気にしてたら、創作物なんて楽しめないよ？

物語りなんて勝手に始まって勝手に終わるモノだからね。

そんな訳で短いだろうけど、ゆつくり楽しんで行くといいよ。

僕の物語り……と言うより、めだかの物語りだろうけどね……僕も弟も生まれ持った弱者で、敗者で、過負荷だから主人公なんてガラじゃ無い。

完全無欠に近いめだかの方が何億倍も……マイナスじゃあプラスでいくらかけてもプラスにならないっけね。

始まる前に僕の話聞いてくれるかい？

聞いてくれるね。友達だもんね！当然だよね！

まずは主人公体質のめだかと、どこで会ったか話をしようか。

アレとは病院で会ったね、会ったと言っても、僕は何にもしなかったけど……

だけど弟は一目惚れしたみたいでさ、意味がありそうな無意味な事を言っただけを引こうとしたんだよ。

失敗に終わったみたいだけど。

それと、病院は異常無しって判断されて行くだけ無駄な結果だったけど。いや、新しい友達ができたから無駄ではなかったかな？

その子の名前は人吉 善吉だったって普通な男の子だったね。

それからちよくちよく、遊ぶようになったんだけどね。あのめだか

も一緒つてのが気に入らなかつたけど。

敵対していながら一緒に遊ぶ。思えば、これが中学のあの時まで続いたんだよね……そう、あの日まで。

始まりはそう、阿久根くんがめだかを壊せなくて、改心させられた事件だ。尤も、特別の阿久根くんが異常で完璧なめだかを壊すなんて最初から無理ゲーだつたんだろうけど。

そんな事があつたから、当時阿久根くんの上にいる僕の弟の襖にめだかが殴り込みに行った訳だ。最悪のタイミングでね。

ちようどその時に、弟が女の子の顔を剥がした後だつたんだよね。そんな訳で、弟はボコボコにされたあげくに、守りもしない約束をしたわけだ。

弟がそんなになつたから、一緒の中学に居ずらくなつたつから転校したんだよ。それから1度も会ってないね、善吉くんにも阿久根くんと、めだかにも。

時間は流れて高校2年生になりました。

驚いた事に、僕が通ってる箱庭学園にめだかが来るんだと知つたら、学園長に頼んで表の名簿から名前を削ってもらつたんだよ。

会いたくなかつたし、生徒会長になりそうな気がしたからね。実際になりやがったシネ。

先手を打った御蔭で、知られずに済んだから良しとおこうか。

会長になってから好き放題にしてたね。普通に人の身で校舎を動かしたりとか、やっぱり友達になれそうにない完璧で異常な存在だね。

そうそう、もうすぐ弟の楔がこの箱庭学園に来るんだって、楽しみだね！きつと気に入るよ、僕の友達達マイナスをね。

『久しぶりだね、兄さん』

「ん？いつから括弧付けるようになったんだい楔？」

『ん〜そうだね。中二位かな〜』

「なるほど、中二病か。ジャンプ好きなら仕方が無いかな？」

『そうだね！理事長に挨拶したいから悪いけど理事長室に案内してくれない？』 『兄さん』

「その前に、寄りたい場所があるけど良いかい？」

『別にそれほど急ぐわけでも無いからいいよ！』

別にもう隠れる必要も、隠す必要が無いから、2人でみんなに会ってもいいよね？

「ははは、やっぱり楔は弱くて強いな」

『今回は、兄さんが居たからあまりやられずに済んだよ』 『ありがとうね!』

なんか知らないけど、戦ってた連中を2人で掬子伏せて。どいつもこいつも掬子を体に押し込まれている。

ん？

「ねえ、その君。もし良かったら友達にならないか？握手してさ」

『んん?』 『いたい誰に話掛けるの?』 『もしかして、幽霊?』

「残念だけど、嫌われちゃったみたいだね。今回は諦めるよ。でも、次はこの手を取って握手してほしいね」

残念、残念。また1人新しい友達ができるかと思ったのに。でも、旧友に会えるね。今すぐに……

奥のエレベーターからめだか達がぞろぞろと出てくる。

うん、うん。来た、来た。

「なんだ……これは……」

その疑問に答えるように楔がしゃべりだす。
今日の夕飯どうしよっかな〜

「実際はどうなのだ、乙史よ」

「ん？ああ、ごめん、話聞いてなかった。正直、友達でもないような奴の声って聞く気になれないんだよ。前から変わってないだろ？めだか」

「ツ！貴様！！」

「で？何の話をしてたの？善吉くんに阿久根くん」

「これを、誰がやったかです」

「ああ、そんな事。喧嘩してたから、仲良く両成敗をしたんだよ、仲間意識ができて仲良くなれるかもね。もしなったら教えてね、僕も友達になりに行くからさ」

そう言ってその場を後にする。

球磨川 乙史（おとし）

球磨川 楔の双子の兄 自称 友達作りの天災

身長は楔より高く、ガツチリとした体形で喧嘩などには結構強い。

二卵双生児のため、あまり似ていない

過負荷（マイナス）

悪友 （バットフレンド）

大抵の人物と対等な友達になる。ただし、相手がマイナスでない限り相手がマイナスまで堕ちる事になる。効果は一時的だが、個人差あるものの十分な時間を共に過ごす事によって相手をマイナスにまで完全に堕とすことができる。

(後書き)

やっちゃたぜ！

こんな過負荷があってもいいよな、とか考えています。完全に影響型の過負荷ですよね

もし使いたい人がいるならメッセージさえくれれば使っても構いません。この続きを書く気が無いので。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1868u/>

球磨川 乙史

2011年10月9日02時58分発行